

第2回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日時 令和2年12月23日
開会 14時30分 閉会 16時05分
2. 会場 塩竈市民交流センター 5階会議室
3. 出席者 塩竈市長 佐藤 光樹
塩竈市教育委員会
教育長 吉木 修
教育長職務代理者 佐浦 弘一
委員 松田 攝子
委員 高橋 輝兆
委員 佐藤 香

(事務局)
建設部長兼政策調整監 荒井 敏明
市民総務部政策課長 末永 量太
市民総務部政策課課長補佐兼係長 菊池 亮
教育部長 阿部 光浩
教育部理事 佐藤 達也
教育部次長兼市民交流センター館長 本田 幹枝
教育部参事兼学校教育課長 白鳥 武
教育部教育総務課長 佐藤 聡志
教育部生涯学習課長 布施 由貴子
教育部教育総務課総務係長 中村 顕介
教育部教育総務課総務係主事 蜂谷 愛
4. 協議事項 議題1 第6次長期総合計画の策定を踏まえた塩竈市教育大綱等の策定について
(1) 塩竈市教育大綱、塩竈市教育振興基本計画の延長について
(2) 塩竈市生涯学習プランの延長について
議題2 本市の学校教育・生涯学習の取組について
(1) 新学習指導要領の全面実施について
(2) 学校における今日的課題について

5. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

議題1 第6次長期総合計画の策定を踏まえた塩竈市教育大綱等の策定について

- (1) 塩竈市教育大綱、塩竈市教育振興基本計画の延長について
(説明者：教育部教育総務課長 佐藤 聡志)
- (2) 塩竈市生涯学習プランの延長について
(説明者：教育部生涯学習課長 布施 由貴子)

資料に基づき提案した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈松田委員〉 今年、新型コロナウイルス感染症の関係で、目標としていた指標が達成できなかった分野があると思う。しかし、PDCAサイクルを大事にし、一度令和2年度末までの目標の確認をしたうえで、令和3年度に向けて取り組むことが重要ではないか。そのうえで、令和3年度に第6次長期総合計画の策定に臨むべきではないか。塩竈市教育振興基本計画の第5章推進体制にある計画の進行管理、計画の推進体制の項目を大事にしながら次に進めていってほしい。

〈佐藤課長〉 7月に第1回総合教育会議を開催した際に、平成30年度のデータを使用した主要な点検・評価報告書のまとめを提出させていただいた。令和3年度に次期計画を策定する際、令和元年度のデータが主要となるが、令和2年度の最新データも反映させて次期計画を策定するようにする。また、PDCAサイクルについて、点検評価委員の学識経験者からも意見があるため、PDCAサイクルのあり方について、併せて検討していく。

〈松田委員〉 令和2年版点検・評価報告書にある不登校出現率について、コロナ禍で今後、コロナに関するいじめやSNS関係のいじめにより心のケアが必要になってくる事例がたくさん出てくると思う。塩竈市の場合は出現率が減少傾向にあり、様々な施策の成果だと思うが、小学校での不登校児童生徒数は横ばいであるが、低年齢化傾向が心配である。子どもを育てるうえでのケアとして、けやき教室とコラソンの運用について効果が上がるようにしてほしい。

〈吉木教育長〉 けやき教室とコラソンについて、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携を密に取れるような中心としてのセンター化を目指していく。学校に行けない子どもの居場所というだけでなく、そこから各学校と連絡が取れるソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置して活動をしていきたい。小学校でもスクールカウンセラーを有効に活用できるようなセンター化を目指したいと考える。この

ことも基本計画に盛り込んでいきたい。

〈佐浦委員〉 第6次長期総合計画の策定が延長されたが、今年の1年間は例年と比べ、特殊な1年間であり、この状況が次年度もどれくらい続くのか分からない状況である。従来目指してきた、令和元年度までの状況と違った要素がでてきている。今までの指標と違った、新型コロナウイルスの影響を受けた学校教育、児童・生徒の育成に留意して次期計画の策定に活かしてほしい。

〈佐藤教育総務課長〉 将来に向けた臨時休校期間中の教育の保証や点検・評価報告書でも若干触れられているが、デジタル機器やICT機器を活用した方法等、新型コロナウイルスだけでなく、自然災害の際も教育を継続していく取組等も検討されたいという意見もある。令和2年度の特異な状況も踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策が一般化されていく中で、教育環境の整備としてそうした点を計画に盛り込んでいきたい。

〈佐藤委員〉 塩竈市教育振興基本計画の施策1生きる力を育む教育の充実の中の、不登校・いじめ対策の充実ということで、各学校では定期的に子どもたちに対してアンケート調査を行っていると思うが、その集計は担任の先生が行っているのか。昨今のニュースで、担任の先生が自分の力不足だと思われるからということでアンケートの改ざんがあったと聞いた。また、先生方は本当に忙しい中でのアンケートの集計は大変だと思う。担任の先生ではない人がアンケートの集計を行えばいいのではないか。いじめ対策として、アンケートの処理、その後の処理としていい方法はないか考えていただきたい。

〈白鳥学校教育課長〉 ニュースに出ていたアンケートの改ざんがあった件では、現在アンケートの開封を第三者が行っているようである。本市ではそこまでは進んでいないが、校長会等でもそのニュースを紹介し、同じ轍を踏まないよう注意している。子ども達がどのように考えているかという実態を何よりも担任が知ることが大事だと考えているため、第三者ではなく、教師を信頼して、まず初めに担任がアンケート見るという体制をとっている。いじめアンケートは月1回行っているもので、不正がないよう指導を行いながら続けられる形で行っていきたい。

議題2 本市の学校教育・生涯学習の取組について

- (1) 新学習指導要領の全面実施について
(説明者：教育部学校教育課長 白鳥 武)
- (2) 学校における今日的課題について
(説明者：教育部学校教育課長 白鳥 武、教育総務課長 佐藤 聡志)

活動状況について報告した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈高橋委員〉 2学期制の実施について、デメリットはないのか。

〈白鳥学校教育課長〉 例えば、資料に載せた配慮が必要な事項というのがデメリットに近いと考える。例えば、対外的な行事は3期制の市町村との調整や県大会など上位の行事に対する調整が必要になってくる。また、通信票が年3回から2回になることで保護者への丁寧な説明が必要になってくるとともに、その評価期間が長くなった分、中間評価のやり方も各校で工夫が必要になってくる。

〈松田委員〉 私が考えるデメリットは評価期間が延びることである。長期的な評価を行わなければいけないため、しっかりと記録し、総合的に評価することが必要かと思う。また、それを保護者にしっかりと伝えることが大切だと考える。先進的に2期制になっている市町村の良い点を取り入れ、スムーズな以降に勤めてほしい。

〈佐浦委員〉 2期制になると大きなテストで理解度をチェックする機会が減ると思う。常日頃の理解度チェックをしっかりと行い、授業についていけない子どもがいないよう配慮してほしい。

〈白鳥学校教育課長〉 記録を取るのを重要視していく。また、中間考査、期末考査だけでなく形成的評価、單元ごとの節目のテストを大事にしていく。

〈吉木教育長〉 家庭における一番のデメリットは長期休業前に通信簿を持ってこないということではないか。保護者側からするとけじめがつかないと感じるかもしれない。そこをカバーするために夏休み中の二者面談で子どもの様子をしっかりと伝える等対策をしていく。

〈佐藤市長〉 変化があるときの事前の説明はとても重要である。2期制の中身についても十二分に説明するようにしてほしい。

〈松田委員〉 小学校外国語の教科化について、担任の先生やALT等、複数の先生での打ち合わせや授業づくりはどのように行っているのか。また、小学校1・2年生の教科に創意の時間があるが、どれくらいの時数で授業を行っているのか。

〈白鳥学校教育課長〉 打ち合わせについて、授業を行った日に、次の授業について打ち合わせを行っている。また、創意の授業時間数については、多くて10時間程度である。

〈佐浦委員〉 コミュニティスクールについて、また、地域学校協働活動について、このような仕組みは地域に開かれた学校・教育ということで良いことだと思う。しかし、学校運営協議会の報告や地域との接点づくりをどのように運営していくか等、校長・教頭の負担が増えるのではないかと。運営面でのサポートが大事になってくるのではないかと。と思うので、配慮してほしい。

〈白鳥学校教育課長〉 先進校での事例を見ると、地域の意見を聞いて助かったという事例が多い。負担が増えるのではないかとという点については、開催回数は増えるが、学校をサポートする応援団として考えている。ご意見を受け止め、配慮していく。

〈吉木教育長〉 現在、学校評議員以外に学校の運営がどうか判定を行う学校関係者評価委員会というものがある。これが、学校運営協議会になると一体となり、評価まで運営協議会で行うようになるため、組織的には集約される。地域に開かれた学校を考えたときに、校長・教頭が地域とつながることが大事になってくるため、コミュニティスクール等の取り組みをしっかりと行っていきたい。

〈佐藤市長〉 学校だけに任せるのではなく、教育委員のアドバイス等、行政も積極的に学校の運営に関わっていくことが必要である。

〈佐藤市長〉 特別の教科として道徳が入ってきている。倫理観、道徳観を教えるのは難しいところだが、社会生活をしていく中で重要になってくるので、実体験に繋がられるような道徳であってほしい。地域の様々な社会経験を持った方の話を聞くのも生きた道徳のあり方だと思う。

〈白鳥学校教育課長〉 体験をもとに自分を振り返ることが重要視されてきている。地域の方々を呼び、ゲストティーチャーとして話を聞くという活動はこれまでも行っている。国で示されている道徳的価値というものが、思いやりや崇高さ等22項あるが道徳は35時間ある。どの項に力を入れて授業を行うかは各校に任されている。学校の特色、課題の克服を地域の方の力を借りて行っていきたい。

〈佐藤市長〉 生きた話というのが一番入ってくる。そこに力を入れて行ってほしい。

〈松田委員〉 11月定例会の時の資料で、第二中学校でのwithコロナ～新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別をなくすためにという指導案を見て感動した。こういったリアルタイムで子ども達に考えさせるような取り組みは、他校にも共有し、道徳の授業づくりに取り入れて行ってほしい。

その他

全体を通して、教育に関する意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈佐藤市長〉 幼児教育についてはいかがか。今度小学校に入る幼児について、小学校の先生方と事前に意見交換等を行えばいいと考えるが。

〈佐藤委員〉 6月と1月に各保育所・幼稚園、各小学校の先生と申し送りを行っている。また、小学校の先生が実際に各施設へ訪問し、集団生活をしている様子を見ていただき、子どもの様子について情報交換をしている。

〈佐藤市長〉 佐藤委員の考えとして、何かこうしてほしいなどの意見はあるか。

〈佐藤委員〉 子どものきめ細かなサポートや担任が一人で抱え込まなくて済むよう、せめて、小学1年生の時は各クラスに補助の先生が1名つくると良いと考えている。幼稚園側から見ると、低学年のうち35人学級を一人の先生が担当するのはとても大変だと思う。必ずサポートの先生が一人いると子どもも先生も幸せなのではないか。

〈佐藤市長〉 保護者が安心して預けられるかというのが、重要な視点だと考えている。

学力だけでなく、特徴のある教育を行うことが、塩竈市に移住してきてもらう一つの要素になると考えている。取り入れられる取り組みは力を入れて取り入れていきたいと考えているが教育長はいかがか。

〈吉木教育長〉 塩竈市は学びの土台作りもしっかりと行っており、幼保小の連携はかなり進んでいると思う。新入生のクラスは、担任一人、支援員一人といった体制が理想だが、2～3年生のクラスにも支援員が必要なケースもある。今後も幼保小連携を深めていければと考える。

〈佐藤市長〉 低学年のクラスには、様々な配慮が必要になってくる。何ができるのか、先生、保護者、そして何より子どもにとって何が重要なのか、今しかないこの時期を充実して過ごしてほしい、というのが塩竈市の願いなので、そういったところを工夫して考えさせていただきたい。

○閉会